



こっきょう 國橋を顕彰し大神楽大会

(4月25日 日名交流館かぐら)

江戸時代後期の神官で現在の備中神楽の基礎を確立した西林國橋を顕彰する、恒例の「國橋まつり大神楽大会」(同実行委員会・成羽備中神楽振興会主催)が開かれました。

子ども神楽に続き、「神楽神事」「神代神楽」が披露され、訪れた約1,000人の神楽ファンらは、県内一流の神楽太夫の熱演にじっくりと見入っていました。

酒蔵でジャズコンサート

(4月11日 有漢町内酒蔵)

「JAZZ from UKAN 酒蔵コンサート2010」(備北商工会青年部主催)が開かれました。

ジャズ歌手 鈴木重子さん、3人組の演奏トリオ「音遊び」が出演し、「ユア・ソング」「ベルベット・イスター」などの名曲を披露。県内外から集まったおよそ200人の音楽ファンらはムードあふれる酒蔵でのジャズを満喫しました。



自然や動物の写真を堪能

(4月24日 成羽美術館)



特別展「岩合光昭写真展—地球のたからもの」が開幕し、初日には岩合さんのスライドトークショーが開かれました。

国内を代表する動物写真家である岩合さんは、動物たちの写真をスライド上映しながら撮影時のエピソードなどを話しました。

1972年のデビューから「生命のつながり」をテーマに、北極やアフリカなど世界中で野生動物を撮り続けている岩合さんの写真約200点が展覧されている今回の特別展。開幕以来、毎日多くの人々が訪れており、7月4日(日)まで開かれています。



人と自然との共生を考えよう

(4月24日 総合文化会館)

自然と人にやさしい暮らしについて考えるイベント「グリーンデイ2010」(同実行委員会主催)が開催され、高梁川にゆかりのある団体による活動の展示や木工体験、物産市のテントが並びました。

大ホールでは、環境・農業・福祉・地域づくりなどへの思いが詰め込まれた映画「降りてゆく生き方」が上映され、たくさんの方が自然との共生を考える一日となりました。



春の恵みを味わう

(5月2日 備中町・コミュニティハウス田原荘)

採れたての山菜を天ぷらやかき揚げにして味わう「田原の春を揚げよう会」(田原地区コミュニティ協議会主催)が開かれました。地域の自然の恵みを再認識するとともに、参加者の交流を深めようと、毎年この時期に開催されており18回目。今回は異文化交流を図ろうと、吉備国際大学の留学生も招待されました。

参加者は約1時間かけて会場周辺を回り、食材の山菜を採取。早速、タラの芽やタケノコ、ノビルといった山菜をカボチャやサツマイモなどと一緒に衣を付けて大鍋で揚げ、出来たてをご飯やうどんにのせるなどし味わいました。



備中高梁元気プロジェクト

(4月24日 吹屋小学校)

市の文化や観光資源を掘り起こし、地域力や魅力を高めることを目的として市が取り組んでいる「備中高梁元気プロジェクト」。このプロジェクトの一環として、「備中高梁元気づくり講演会」(同プロジェクト事業推進協議会主催)が行われました。

総務省地域力創造審議官の椎川忍さんが本市の観光について、「(そこに住んでいる)人の力を変えていかないと地域は変わらない」「積極的な情報発信が必要」などと話し、参加したおよそ70人は熱心に聴き入っていました。



弥高山に歓声 (4月18日 弥高山公園)

「弥高つつじ祭り」(川上町観光協会主催)が行われました。

今年は寒い日が続いたため、弥高山のつつじは見ごろとはいきませんでした。ステージでは備中神楽や歌謡ショー、会場では地元の特産品の展示即売などもあり、訪れた家族連れらは弥高山の一日を存分に楽しみました。



カメラ

あらかると

